

株式会社椿本チエイン

2022年3月期 第2四半期決算報告

<アジェンダ>

説明内容	説明者	予定時間
・ 2022年3月期 第2四半期決算報告 ・ パワトラ事業の取り組みについて	代表取締役社長 古世 憲二	35分
・ 質疑応答	社長、各事業統括、 財務担当役員	25分

2021年11月19日

2022年3月期 第2四半期連結業績報告

1. 22年3月期2Q比¹⁾ 連結決算ハイライト

2

- 新型コロナの影響を強く受けた前年同期と比して増収増益。
5月11日公表予想に対して売上未達も利益は達成。

(単位：百万円)					
	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	予想比（5月11日公表）	
	第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
売 上 高	88,472	102,518	15.9%	107,000	▲4.2%
営 業 利 益	3,042	8,185	169.0%	7,000	16.9%
営業利益率	3.4%	8.0%		6.5%	
経 常 利 益	3,982	9,156	129.9%	7,700	18.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,090	6,624	114.4%	6,000	10.4%
1株当たり四半期純利益	83.49円	178.96円		162.10円	—
（為替レート 1USD）	106.93円	109.81円		107.00円	—
（為替レート 1EUR）	121.34円	130.88円		130.00円	—
（為替レート 1RMB）	15.37円	16.66円		16.00円	—

2. 22年3月期2Q比¹⁾ 事業セグメント別業績

3

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	予想比（5月11日公表）	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	29,006	35,348	21.9%	33,000	7.1%
	営業利益	3,045	5,142	68.8%	3,500	46.9%
	営業利益率	10.5%	14.5%		10.6%	
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	8,718	9,539	9.4%	10,700	▲ 10.9%
	営業利益	329	426	29.5%	400	6.5%
	営業利益率	3.8%	4.5%		3.7%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	24,658	32,420	31.5%	36,000	▲ 9.9%
	営業利益	▲ 55	3,648	—	3,800	▲ 4.0%
	営業利益率	—	11.3%		10.6%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	25,790	25,334	▲ 1.8%	28,400	▲ 10.8%
	営業利益	286	▲ 221	—	100	—
	営業利益率	1.1%	—		0.4%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	1,880	1,338	▲ 28.8%	1,100	21.6%
	営業利益	▲ 171	▲ 222	—	▲ 200	—
	営業利益率	—	—		—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

※3：22年3月期より従来モーションコントロールに含めていたビジネスの一部をモビリティ事業に移管しております。前期も当該変更を反映しております。

3. 22年3月期2Q比¹⁾ 所在地別業績

4

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比
		第2Q実績	第2Q実績	増減率
米 州	売上高 ^{※注}	25,299	27,778	9.8%
	営業利益	543	1,555	186.1%
	営業利益率	2.1%	5.6%	
欧 州	売上高 ^{※注}	9,501	11,904	25.3%
	営業利益	77	545	608.5%
	営業利益率	0.8%	4.6%	
環インド洋	売上高 ^{※注}	5,901	8,329	41.1%
	営業利益	512	1,201	134.3%
	営業利益率	8.7%	14.4%	
中 国	売上高 ^{※注}	7,539	9,693	28.6%
	営業利益	59	641	975.2%
	営業利益率	0.8%	6.6%	
韓国・台湾	売上高 ^{※注}	3,782	5,147	36.1%
	営業利益	▲ 33	219	—
	営業利益率	—	4.3%	
日 本	売上高 ^{※注}	48,214	56,402	17.0%
	営業利益	967	3,796	292.2%
	営業利益率	2.0%	6.7%	

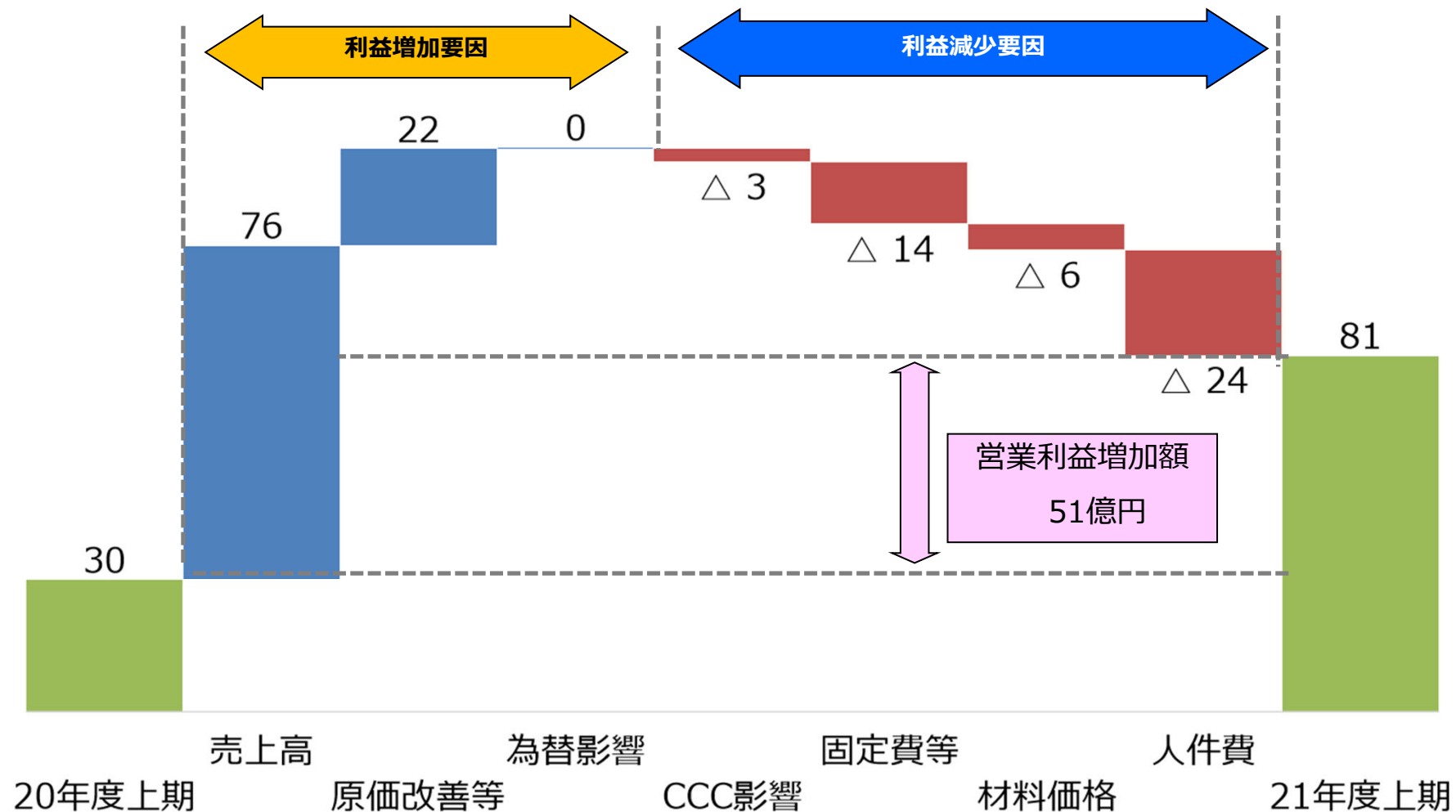
※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

	USD	EUR	CAD	AUD	THB	TWD	RMB	KRW	MXN
21/3上期	106.93	121.34	78.72	73.31	3.43	3.60	15.37	0.09	5.05
22/3上期	109.81	130.88	88.30	82.61	3.50	3.92	16.66	0.10	5.34

4. 22年3月期2Q比“1- 連結営業利益増減要因分析 5

■ 2021年3月期上期実績 vs 2022年3月期上期実績 (単位：億円)



5. 22年3月期2Q比¹⁾ 事業セグメント別業績

〈チェーン〉

6

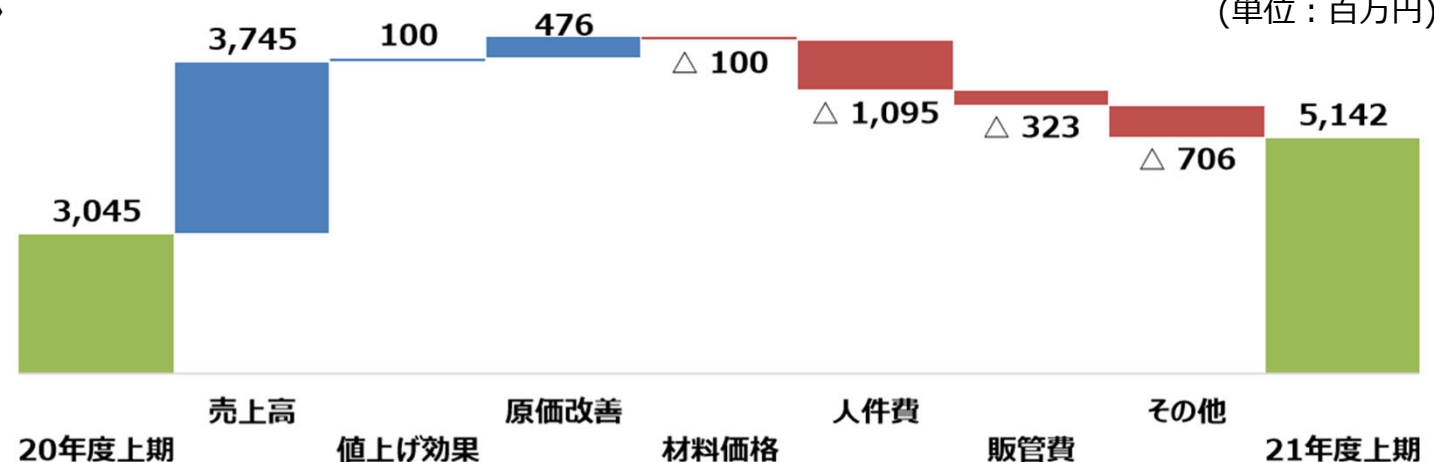
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	業績予想比	
		上期実績	上期実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	29,006	35,348	21.9%	33,000	7.1%
	営業利益	3,045	5,142	68.8%	3,500	46.9%
	営業利益率	10.5%	14.5%		10.6%	

〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



〈前年同期比〉

- すべての地域において、COVID-19感染拡大の影響を受けた前年同期から回復、増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- 日本および米国での販売好調により増収。コスト削減にも引き続き注力した結果、大幅な増益。

5. 22年3月期 2Q比¹- 事業セグメント別業績

〈MC〉

7

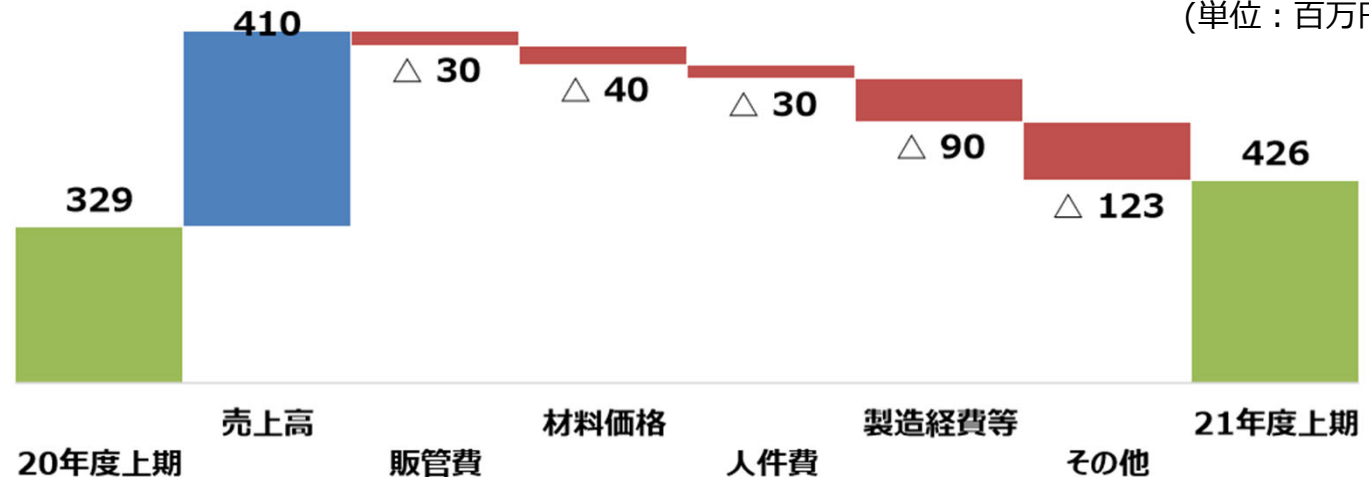
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	業績予想比	
		上期実績	上期実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	8,718	9,539	9.4%	10,700	▲10.9%
	営業利益	329	426	29.5%	400	6.5%
	営業利益率	3.8%	4.5%		3.7%	

〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



〈前年同期比〉

- すべての地域において、COVID-19感染拡大の影響を受けた前年同期から回復、増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- 特に日本で部品調達に苦慮し、売上高未達も、利益は確保。

5. 22年3月期 2Q比¹ - 事業セグメント別業績 〈モビリティ〉 8

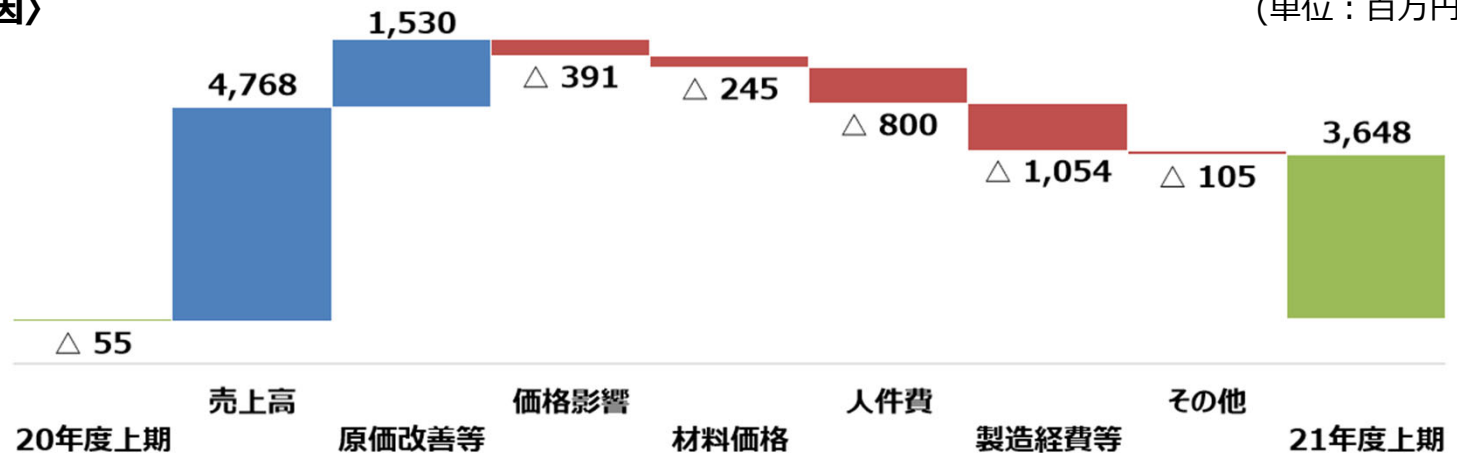
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	業績予想比	
		上期実績	上期実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モビリティ	売上高 ^{※注1}	24,658	32,420	31.5%	36,000	▲9.9%
	営業利益	▲55	3,648	—	3,800	▲4.0%
	営業利益率	—	11.3%		10.6%	

〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



〈前年同期比〉

- すべての地域において、COVID-19感染拡大の影響を受けた前年同期から回復、増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- 半導体不足による自動車生産台数の減少により売上高未達も、営業利益はコスト削減に努め、利益率は予想を上回る11.3%。

5. 22年3月期2Q比¹- 事業セグメント別業績 〈マテハン〉

9

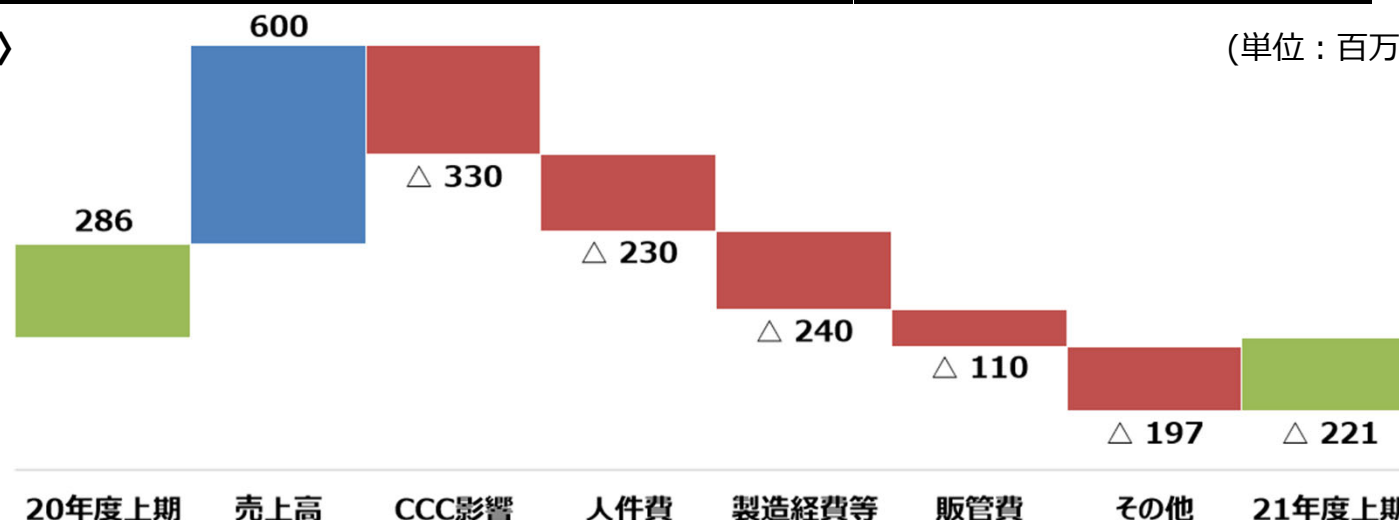
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	業績予想比	
		上期実績	上期実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
マテハン	売上高 ^{※注1}	25,790	25,334	▲1.8%	28,400	▲10.8%
	営業利益	286	▲221	—	100	—
	営業利益率	1.1%	—		0.4%	

〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



〈前年同期比〉

- ・日本では自動仕分け機、子会社の粉粒体搬送設備は堅調を維持も、昨年度は米国で大型案件があったこと等により微減収。米国での工事費用追加計上等により減益。

〈5/11公表予想比〉

- ・米国での案件失注、工事費用追加計上により売上、利益ともに未達。

2022年3月期 連結業績予想

6. 22年3月期 通期業績予想

11

- 半導体不足影響による自動車生産台数の減少等により業績予想を下方修正（2021年10月29日公表）。

（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期			前期比
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
売上高	193,399	102,518	108,482	211,000	9.1%
営業利益	8,896	8,185	6,815	15,000	68.6%
営業利益率	4.6%	8.0%	6.3%	7.1%	
経常利益	11,026	9,156	7,344	16,500	49.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,706	6,624	5,276	11,900	36.7%
1株当たり当期純利益	235.23円	178.96円	142.51円	321.47円	—
（為替レート 1USD）	106.10円			111.00円	—
（為替レート 1EUR）	123.76円			130.00円	—
（為替レート 1RMB）	15.48円			16.50円	—

7. 22年3月期 事業セグメント別業績予想

12

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期			前期比
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	61,312	35,348	34,652	70,000	14.2%
	営業利益	7,862	5,142	3,958	9,100	15.7%
	営業利益率	12.8%	14.5%	11.4%	13.0%	
モーショ ン コントロール	売上高 ^{※注1}	18,024	9,539	11,261	20,800	15.4%
	営業利益	747	426	674	1,100	47.3%
	営業利益率	4.1%	4.5%	6.0%	5.3%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	59,450	32,420	33,380	65,800	10.7%
	営業利益	3,782	3,648	2,252	5,900	56.0%
	営業利益率	6.4%	11.3%	6.7%	9.0%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	53,618	25,334	29,666	55,000	2.6%
	営業利益	▲ 2,202	▲ 221	821	600	—
	営業利益率	—	—	2.8%	1.1%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	3,941	1,338	1,162	2,500	▲36.6%
	営業利益	▲ 330	▲ 222	▲ 178	▲ 400	—
	営業利益率	—	—	—	—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

※3：22年3月期より従来モーショントロールに含めていたビジネスの一部をモビリティ事業に移管しております。

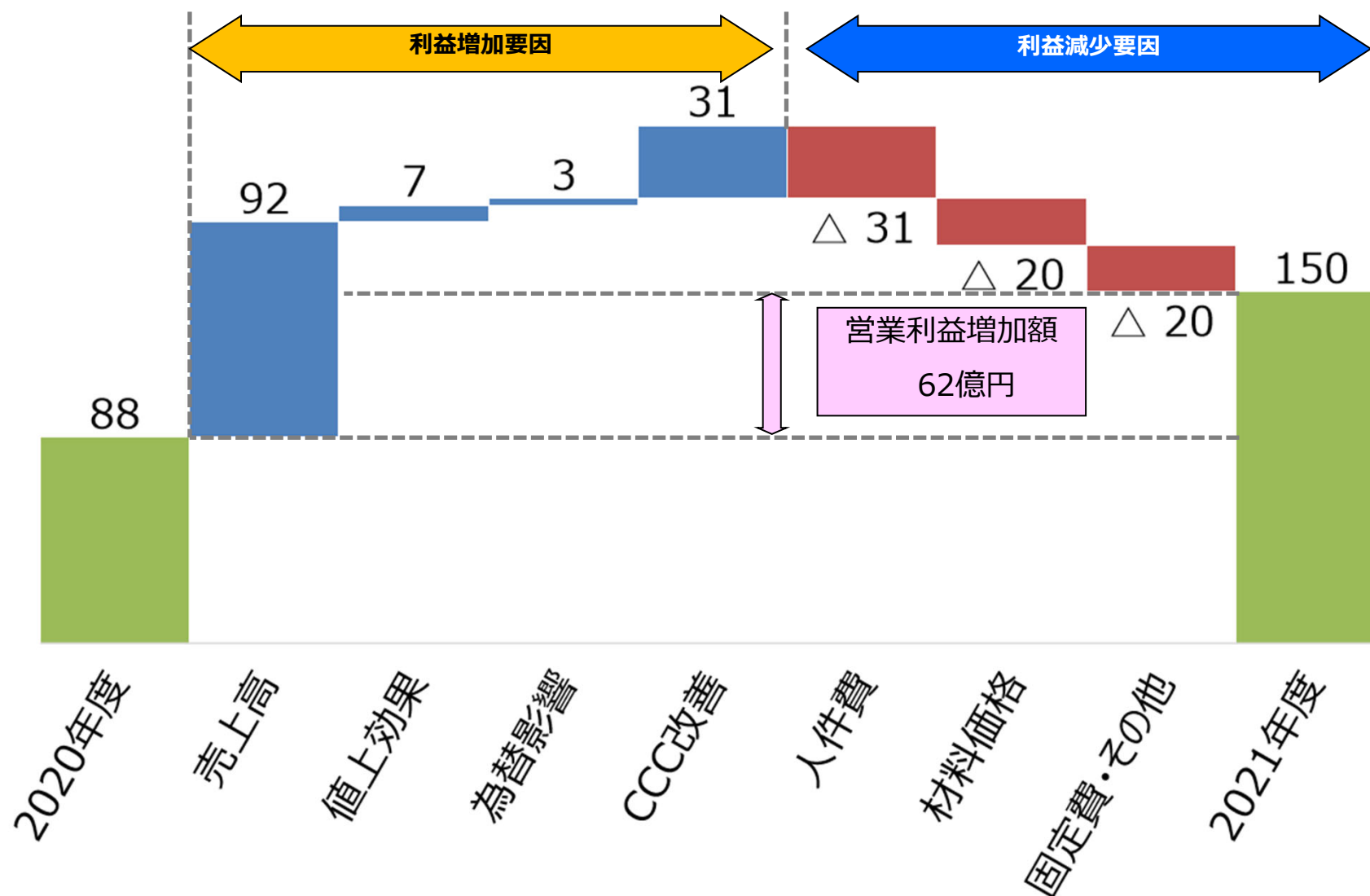
前期も当該変更を反映しております。

8. 22年3月期 連結営業利益増減要因分析

13

■ 2021年3月期実績 vs 2022年3月期予想

(単位：億円)



9. 22年3月期 事業セグメント別業績予想

〈チェーン〉

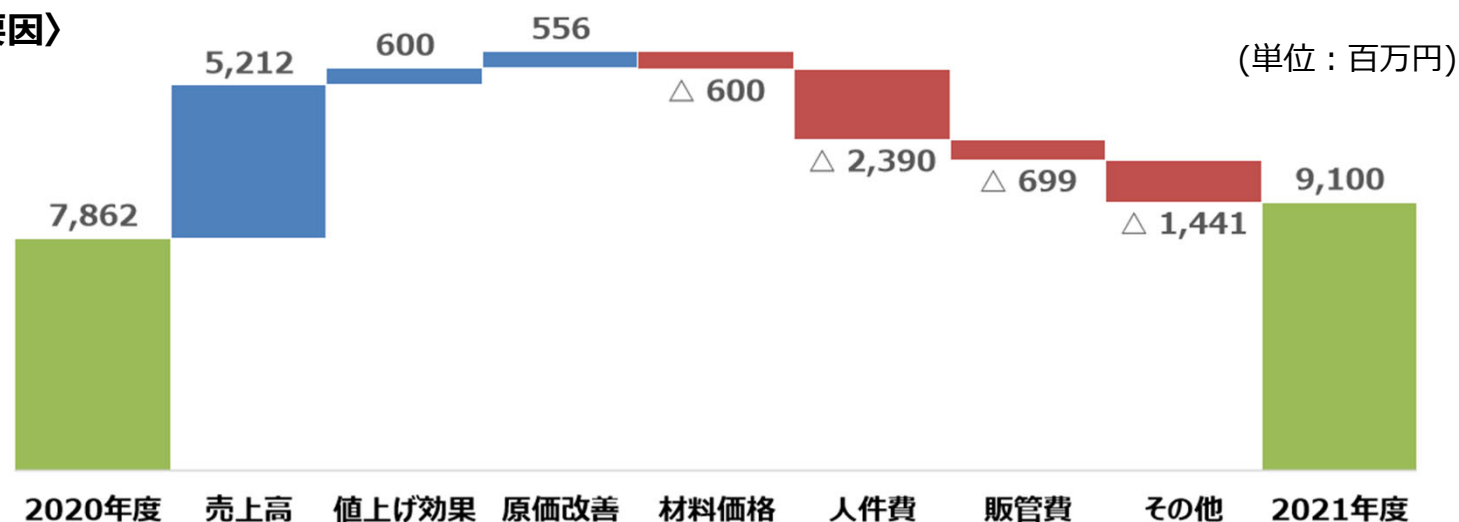
14

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期				前期比	5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想		増減率	金額	通期予想対比
チェーン	売上高※注1	61,312	35,348	34,652	70,000		14.2%	65,800	6.4%
	営業利益	7,862	5,142	3,958	9,100		15.7%	6,700	35.8%
	営業利益率	12.8%	14.5%	11.4%	13.0%			10.2%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年比〉

- ・ 下期は需要が落ち着くものの、すべての地域において好調維持。増収増益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

- ・ 売上の増加に伴う費用増はあるものの、引き続きコスト削減に注力。売上利益ともに上方修正。

9. 22年3月期 事業セグメント別業績予想

〈MC〉

15

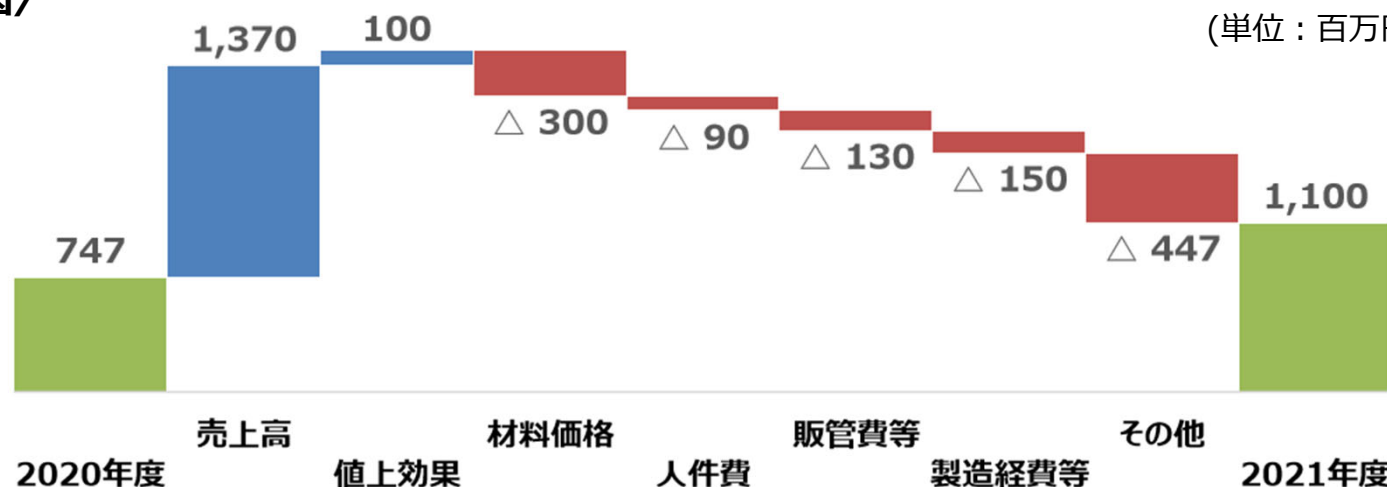
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期			前期比	5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率	金額	通期予想対比
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	18,024	9,539	11,261	20,800	15.4%	22,100	▲5.9%
	営業利益	747	426	674	1,100	47.3%	1,300	▲15.4%
	営業利益率	4.1%	4.5%	6.0%	5.3%		5.9%	

〈営業利益の増減要因〉

(単位：百万円)



〈前年比〉

- ・上期に引き続き全ての地域において回復、増収増益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

- ・上期の部品調達難の影響を挽回するまでに至らず、若干ながらも下方修正。

9. 22年3月期 事業セグメント別業績予想

〈モビリティ〉

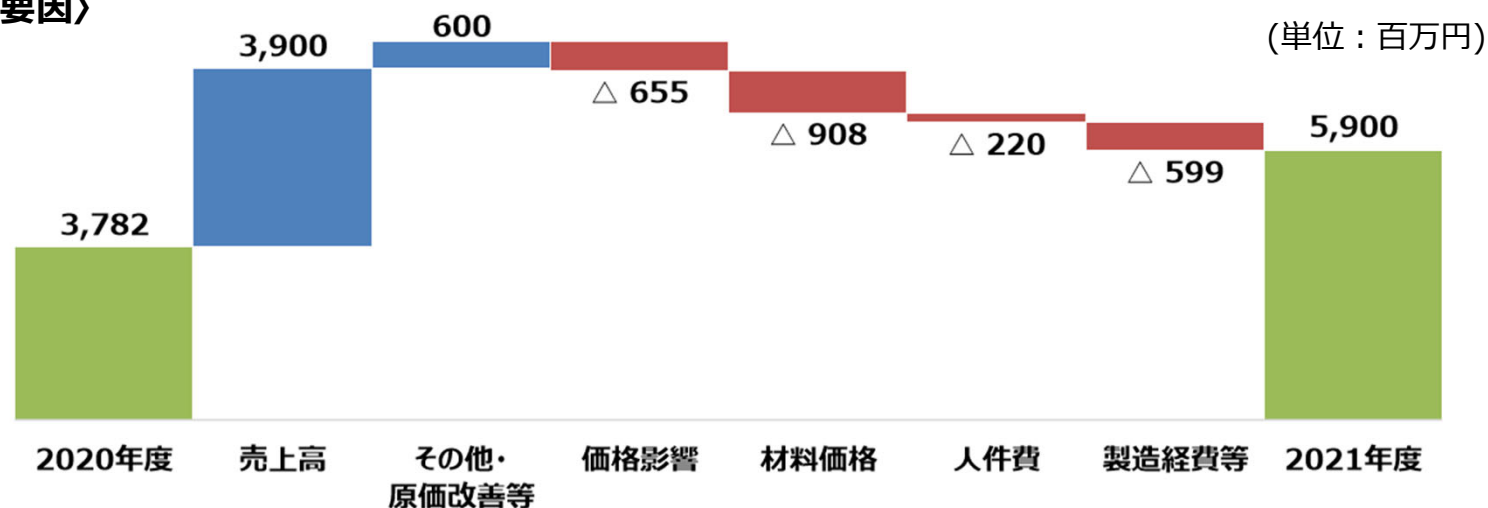
16

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期		前期比	5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	増減率	金額	通期予想対比
モビリティ	売上高※注1	59,450	32,420	33,380	10.7%	72,300	▲9.0%
	営業利益	3,782	3,648	2,252	56.0%	8,000	▲26.3%
	営業利益率	6.4%	11.3%	6.7%		11.1%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年比〉

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、グローバルで落ち込んだ販売台数が回復、増収増益を見込む

〈5/11公表予想比〉

- ・半導体不足影響は下期解消傾向と想定も、上期の減少分をカバーするまでには至らず、減収減益を想定。

9. 22年3月期 事業セグメント別業績予想 〈マテハン〉

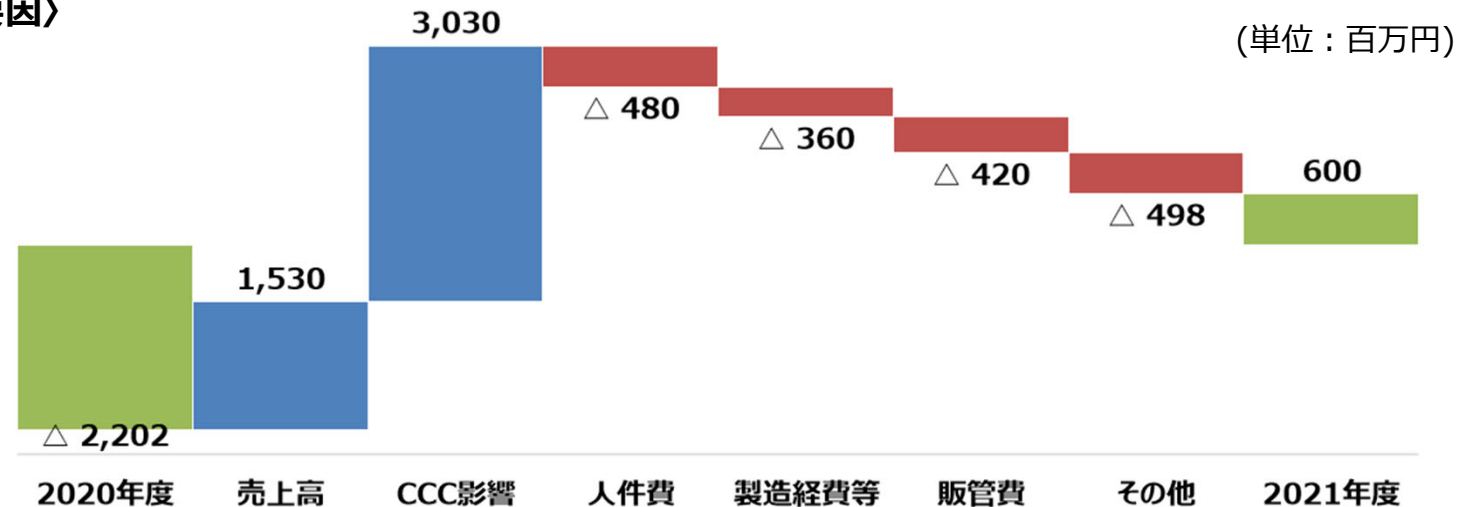
17

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期			前期比	5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率	金額	通期予想対比
マテハン	売上高 ^{※注1}	53,618	25,334	29,666	55,000	2.6%	66,200	▲16.9%
	営業利益	▲ 2,202	▲ 221	821	600	—	1,500	▲60.0%
	営業利益率	—	—	2.8%	1.1%		2.3%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年比〉

- ・日本および北米での自動車業界向けシステムの販売減少はあるものの、物流業界向けシステムや粉粒体搬送システムの販売は堅調を維持、増収・増益を見込む。

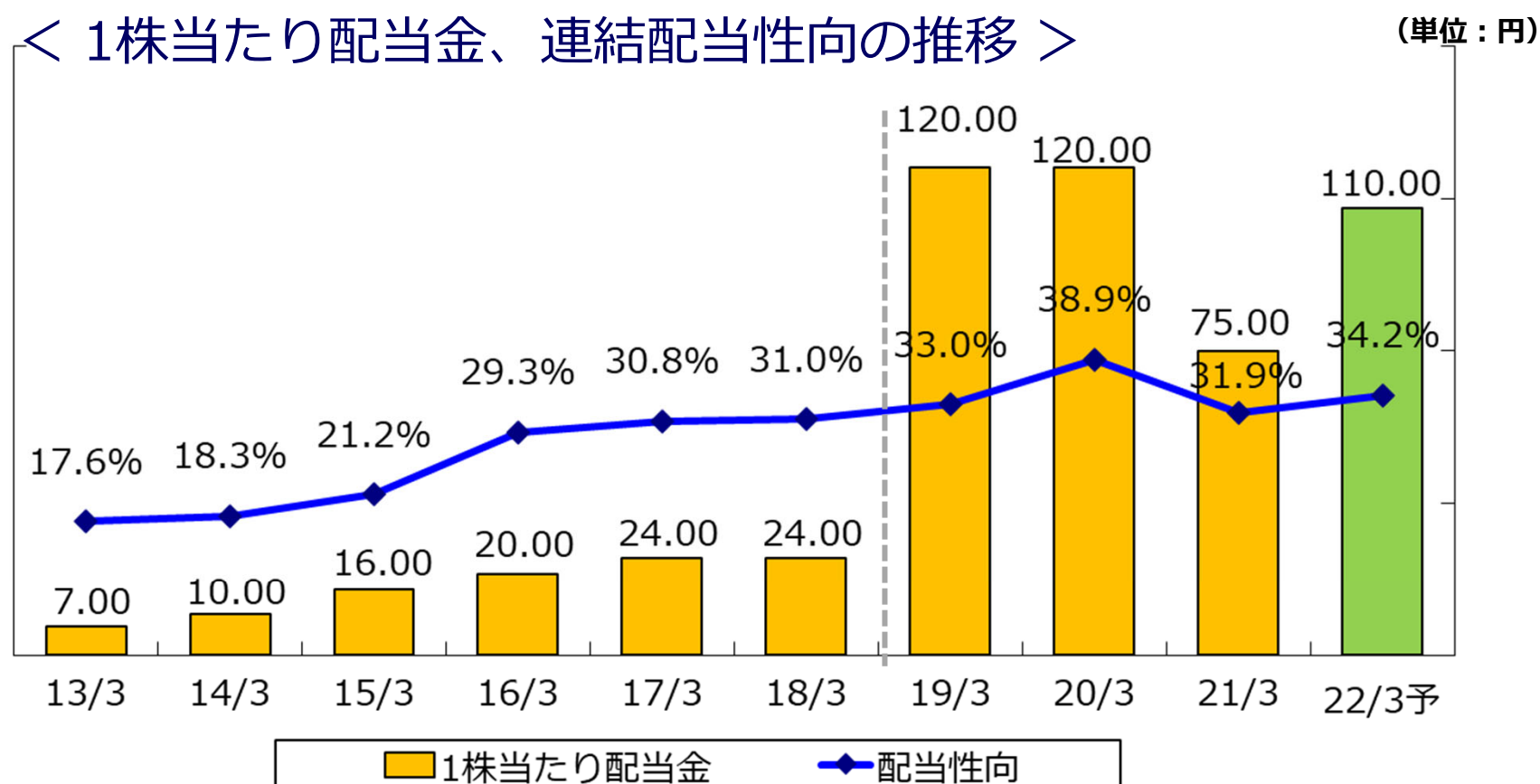
〈5/11公表予想比〉

- ・北米での自動車業界向けシステムの販売減少により、減収・減益を見込む

■ 配当方針

- ・ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、
連結配当性向30%を基準とした利益配分を目指す。

< 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 >



※2018年10月1日付で株式併合を実施。2019年3月期の配当金は併合後で換算。

トピックス

パワトラ事業の取り組みについて

11. トピックス

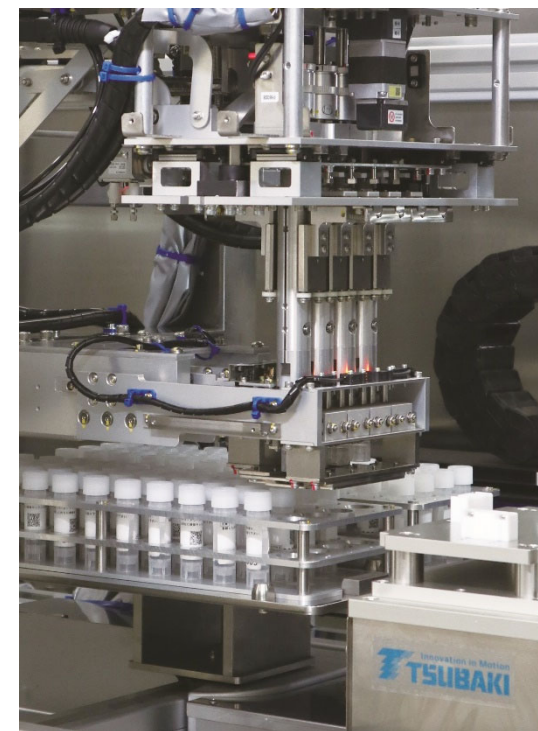
2021年“超”モノづくり部品大賞
健康福祉・バイオ・医療機器部品賞 受賞

20

■ PCR検査前工程自動化装置

「つばきLabo-ALIS Type-M」

- 唾液検体によるPCR検査前処理工程の自動化を実現
- 検査容器の開閉栓～検体移し替え作業を完全自動化
- ★ 検査員の感染リスク低減と検査ミスの排除
- ★ 複数検体同時処理による検査量拡大
(1.3万人分/日/システムの検査が可能)



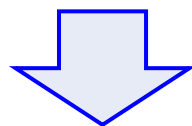
12. パワトラ事業の取り組みについて

21

パワトラ事業統括 中期経営計画

方針

“つながる” & “ポジショニング”



パワトラ事業の総合力発揮

- ① 経営資源の共有と経営活動の共動
- ② 販売面におけるマトリックス経営
- ③ 情報共有による商品・技術強化

12. パワトラ事業の取り組みについて

22

■モノづくりの改革（チェーン事業）

Link2025

Lean manufacturing in Kyotanabe 2025
「ムダのない製造工場」への京田辺工場改革

コンセプト

情報とモノづくりがリンクする自動化工場

製品実現プロセス
の自動化



<モノづくり>

- ・ロボット導入（人の負荷軽減・活人化・少人化）
- ・IoT、AI活用（生産ロスの徹底排除）

<情報>

- ・見積り～出荷までの生産情報の一気通貫システム構築（間接業務の合理化）

12. パワトラ事業の取り組みについて

23

■モノづくりの改革（モーションコントロール事業）

“Connect 2025”

ねらい

スマートファクトリーの実現

『生産の効率化』と『働き方改革』

スマートファクトリー

『清流化したモノづくり』ができる工場

- ①見える工場 （生産状況・実績がリアルタイムで可視化）
- ②止まらない工場（ボトルネックを予測、先手が打てる）
- ③つながる工場 （各部門・各工程間での情報共有と連携）

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。